



遙かなる山脈を望む

山頂の空気を満喫後、下山を開始、時々小休止を取りながら登山時同様足下などに注意しながら出発地点の登山口に到着し、職員から配られた冷たい水の入ったコップを口にする。「いやゝ、旨いなあ。」「あゝ冷たい、おいしゝ。」と喜びの声が聞かれました。

イベント終了後アンケートを取ったところ「本当に楽しい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。」「下山時にいただいた冷水がとてもおいしかった。」「登山道での花や木の話が、とても参考になりました。」「若い世代の参加者が少ないのが残念。」などの回答をいただき、参加者の年齢層をいかに広げていくかが今後の課題となりそうです。

Mini Column

へえ、そうなんだ

高原のイメージキャラとごついカンバ

シラカンバ・ダケカンバ・ウダイカンバ・オノオレカンバ（カバノキ科）

松尾 亨

Tooru Matsuo

岩手北部森林管理署 技術専門官

9 月も下旬になりようやく秋を感じる空気になってきました。ようやく紅葉シーズンを迎えています。が、猛暑に残暑と続きどんな感じになるのかな？今回は黄色の葉っぱと白い幹が錦繡に欠かせないカンバの仲間を紹介します。

シラカンバ・ダケカンバはともに樹皮が白っぽくて似ていますが、見分け方としてポイントは、**シラカンバ**は、葉の形が三角形で基部がスパー型で艶があります。樹皮は白色で枝のあとが黒く「へ」の字や、目にみえます。

それに対し**ダケカンバ**は、広卵型で基部がハート型になり、側脈の数も多く7～12対あります。樹皮は、淡褐色で横に薄く裂け易く老木になると黒ずみます。

ウダイカンバは、円形で基部がハート型の大きな葉を付けます。木目が美しくマカバとも呼ばれ、家具材やフローリングで人気があります。かつては樹皮を、鵜飼いの松明として使ったことが由来で、岩手ではガンビの方言で呼ばれ、お盆の迎え火やストーブの着火材として重宝されています。

以上の3種は高原や高山で見かけるポピュラーなカンバですが、ユニークな名前の**オノオレカンバ**は、岩場や尾根筋に分布

し、北上山地など限られた地域に分布します。材質の堅い木でそろばん玉や家具材として使われます。方言で「アンチャ」と言われ希少種です。

カンバの仲間は、山火事や台風などの森林被害のあと、真っ先に芽生えてくれるパイオニア樹種ですが、先駆種としての宿命として暗い森では発芽できないため、新天地を求めて旅をします。高原のイメージキャラを残すのに山火事・伐採等の攪乱も必要なのですね。



シラカンバ



ダケカンバ



ウダイカンバ



オノオレカンバ